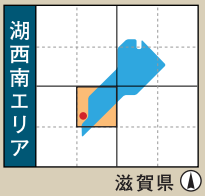
名勝
県指定

唐崎（唐崎神社境内）

大津市唐崎一丁目　平成10年6月19日指定

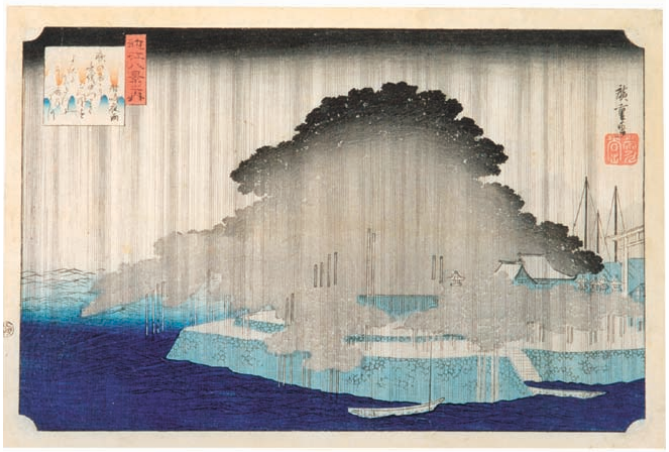


唐崎は、古くから湖畔の名所として、数多くの文献にその名が見えます。特に室町時代に近衛信伊（このえのぶただ）達が選んだ「近江八景」の一つに選定されてからは、その名を広く知られるようになりました。老松の醸し出す神秘的な景観は、歌川広重などの浮世絵にもしばしば登場しています。

当時のできごと	
672年	壬申の乱勃発
1582年	本能寺の変
1921年	原敬首相暗殺

唐崎について

唐崎は「万葉集」や、大津宮関連の文献にも見えるように、古くから湖畔の名所として、また祭祀の場として知られていました。特に平安時代には「七瀬祓所（ななせのはらえどころ）」の一つとして、大変に重要視されていました。また、老松と湖の織りなす神秘的な美しさは、「唐橋の　松は扇の要にて　漕ぎゆく船は　墨絵なりけり」（紀貫之）など、数々の和歌にも詠まれています。史上に名高い景観は、現在では唐崎神社境内に残るのみですが、湖上に突き出た岬状の地形と松が織りなす景観は、今なお、目を見張る美しさです。近江八景には、唐崎の松に降る夕暮れの雨の情景が、「唐崎夜雨」として取り上げられています。また、この松に三輪神が来臨し、やがて日吉大社西本宮（学習シートNo.009）に移り祀られたとも伝えられます。このいわれから、毎年4月14日の山王祭りには、山王七社の神輿が船で神幸（しんこう）する、粟津の御供献備が行われています。



歌川広重「近江八景之内・唐崎夜雨」（大津市歴史博物館蔵）



唐崎神社境内

老松について

唐崎の代名詞ともいえる松は、唐崎神社境内にあり、現在の松は3代目です。

1代目の松は、天正9年（1581）に大風で倒れました。2代目はそれに替わって、同19年に新庄駿河守たちが良木を見つけて植えたものでした。この2代目は幹の周囲が約9m、高さ約10mで、東西に72メートル、南北に86mにも広がる枝を数百の支柱で支えていたといわれています。天下の名木として知られた2代目の松は、大正10年（1921）に枯死してしまいました。

現在の3代目の松は、神社の近くの駒繋ぎ場にあった、2代目の種から生育した木を移植したもので、樹齢150～200年だと思われます。



明治時代の様子

［近江八景］

近衛信伊の案に後陽成天皇の選択が加わり成立。宋代中国の瀟湘八景（しょうしょうはっけい）に、近江の風景をなぞらえたものともいわれています。

近江八景	瀟湘八景
唐崎夜雨	瀟湘夜雨
石山秋月	洞庭秋月
勢田夕照	漁村返照
粟津晴嵐	山市晴嵐
矢橋帰帆	遠浦帰帆
三井晩鐘	煙寺晩鐘
堅田落雁	平沙落雁
比良暮雪	江天暮雪

［唐崎を詠んだ古歌］

さざなみの　志賀の辛崎　幸くあれど　大宮人の　船待ちかねつ
やすみしし　わご大君の　大御船　待ちか恋ふらむ　志賀の辛崎
【万葉集（8世紀後半）】

御禊する　今日唐崎に　下ろす綱は　神のうけ引　しるしなりけり
【拾遺集（11世紀前半）】

夜もすがら　浦ゆく船は　跡もなし　月ぞのこれる　しがのからさき
【新古今集（13世紀前半）】

唐崎や　かすかに見ゆる　まさご地に　擬う色なき　一本の松
【風雅集（14世紀中頃）】

唐崎の　松は花より　朧にて　（松尾芭蕉　17世紀後半）

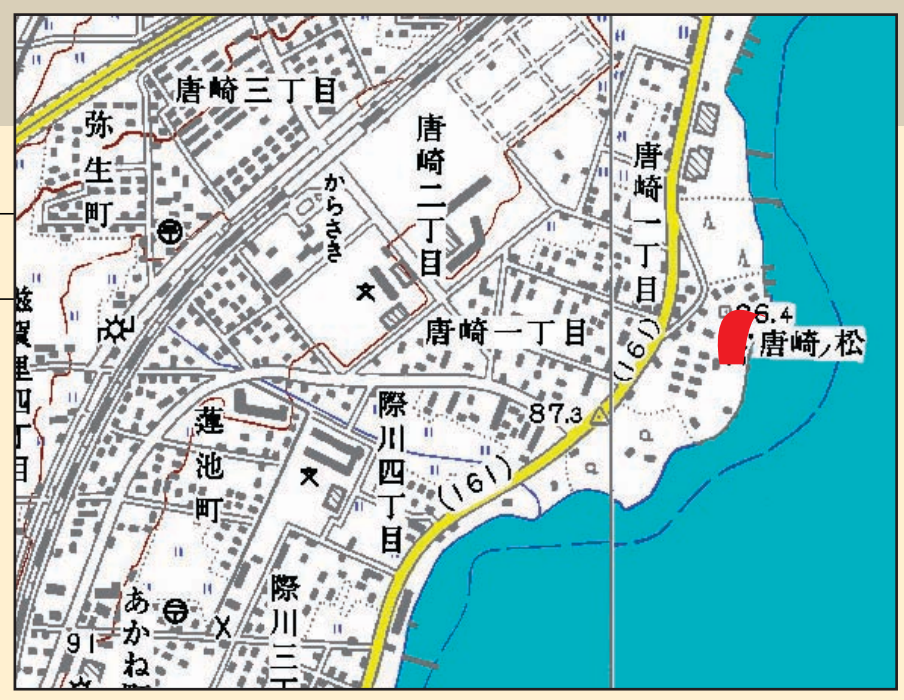
関連する文化財

浮御堂（近江八景）	近江八景「堅田落雁」の舞台。満月寺の堂で、琵琶湖の中に建つ
石山寺境内（近江八景）	近江八景「石山秋月」の舞台。天然記念物石山寺硅灰石と堂舎を映し出す秋の月
園城寺境内（近江八景）	近江八景「三井晩鐘」の舞台。鐘の響きは天下三名鐘と称される。龍神伝承も残る鐘である
日吉神社境内（大津市）	シートNo.009
佐久奈度神社（七瀬祓）（大津市）	唐崎と共に、平安京へのケガレを祓う場。他に難波、農太、河俣（摂津国）、大島、橘小島（山城国）があった

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館　☎077-521-2100　大津市御陵町2-2

大津市教育委員会　☎077-528-2638　大津市御陵町3-1



唐崎（唐崎神社境内）へのアクセス　JR湖西線　唐崎駅下車

【参考文献】〔滋賀縣名勝調査報告〕滋賀縣

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月